

阿蘇

広報あそ

M a y
5

2024 No.232

50th

スズラン自生地
発見から50年

Photo : 自生地に咲くスズラン

スズラン自生地 発見から50年

波野のスズラン自生地は、日本で最南端のスズラン自生地です。5月中旬になると約5万株のスズランの花が咲き、甘い匂いを漂わせます。この地でスズランが発見されたのは今から50年前の昭和49年。半世紀に渡って多くの人の目を魅了してきました。自生地の歴史を振り返り、希少な植物の未来を考えます。



スズラン自生地の歴史

「よく山へ遊びに行き、子供の手では持ちきれないほどのスズランを摘んでいました」。宮崎喜和子さんが小学生になる前のことです。5月になると実家の山には白い花がたくさん咲いていました。山を遊び場にしていた宮崎さんにとって当たり前の光景。それが九州で唯一と言っていいほどの珍しいものだとはまだ想像していませんでした。小学生になって、図鑑を読んでいた宮崎さんは「スズラン」のページを見て驚きました。「これは山にある小さな白い花ではないか」。しかし、当時は「こんなところにスズランがあるわけない」と、家族も取り合ってはくれませんでした。

高校卒業後、旧波野村の役場に勤め始めた宮崎さん。職場に彩りを加えようと窓口や机に、幼い頃から慣れ親しんだ白い花を飾りました。その可憐な姿が上司の目に止まりました。「これはスズランで

はないのか。どこにあったのか。「うちの山にいっぱい生えてますよ」

そして今から50年前の昭和49年、専門家の調査を経てその花がスズランであることが分かりました。その2年後、宮崎さん宅の山は熊本県自然環境保全地域に指定され、スズラン自生地として旧波野村が植物の保護を開始。その後、村が原野を購入し駐車場や休憩所を整備し、現在の姿になりました。

宮崎さんが役場に花を持っていかなければ、上司が花に目を向けなければ、もしかしたら今のスズラン自生地の姿はなかったかもしれません。

スズランは地域の宝

スズランのシーズンになると多くの人で賑わうスズラン自生地。昨年の5月は1カ月で4300人が訪れました。「駐車場に入れないかと思うほどたくさん車の来りました」。自生地で施設の管理や来場者への案内を行っている

スズラン自生地管理組合の釣井けい子組合長は昨年の賑わいを振り返りました。「スズランはまだですが、あの辺りに違う花が咲いていますよ」。釣井組合長は来場者に笑顔で話しかけます。4月下旬からはほぼ毎日自生地にきて、来場者に積極的に声をかけています。休憩所の中には自生地で見ることでできる野草をまとめたパネルを展示。このような心づかいが来場者の心を掴み、年々その数を増やしてきました。

なぜ来場者に対してそこまでするのか。組合長と共に来場者を出迎える組合員の釣井晴奈さんはこう答えました。「スズランをわざわざ見に来てくれるのはありがたいこと。みんなによるこんでもらえたらうれしい」。

釣井さんたちは我が子のようにはスズランへ愛を注いでいます。スズランが蕾をつけること、もしも咲いてくれてありがとう」とうれしくなるそうです。「スズランは波野の宝です。スズランの良さを多

くの人に知って欲しい」。スズラン自生地を支えるのは地元の人たちの愛でした。

スズランのピンチ

地元の人や観光客に愛される一方で、スズランは存続の危機に晒されています。「一昨年も根っこから持っていきましたよ」。釣井組合長が語気を強めました。自生地では盗掘が相次いでおり、スコップで根から掘り起こして持ち去る被害が後を絶ちません。スズランは熊本県の希少な野生動植物に指定されており、採取など違反した場合は条例により1年以下の懲役または100万円以下の罰金が科せられることがあります。「スズランがかわいそうです。どうせ移植しても枯れるだけなのに」。釣井さんが嘆きました。「スズランは見えて楽しんでほしい」

スズランを守る取り組み

市もスズラン自生地での植物の多様性を守るための取り組みを進めています。自生地では監視カメラを3台設置し、盗掘に対する監視を強化しています。

さらに、自生地の植生の調査と最適な生育環境の検討を実施。植生を調査した結果、希少植物21種を含む209種の植物が見つかりました。中には絶滅危惧種をまとめた環境省のレッドリストに掲載されている種もあり、自生地全体の保全の必要性が改めてわかりました。

生育環境の検討は、野焼きをした上で、A・草刈りを年1回、B・草刈りを年2回、C・草刈りなしの3エリアに分けて植物の高さや密度を調査。草刈りの頻度を上げれば植物の種類が増える一方で、外来種が侵入しやすくなる

わかりました。つまり、良い状態を維持するためには、草刈りの回数を変えながら管理をしていくことが理想的だということなのです。

これは奇しくも50年以上前のこの土地の管理手法と似通ったものでした。スズランが発見されるまでは山を採草地として利用していたため、草刈りを定期的に行っていたそうです。もしかしら、草原に人が手を加えてきたことが、スズランが現在まで生き永らえた要因の1つであるのかもしれない。

「思ったより小さい」。スズランを見つけた小学生たちの元気な声が響きます。昨年5月に自生地で波野小の草原学習が行われました。地元の小中学生に自生地のことを知ってもらおうと市と同小が企画。子供たちは「いろいろな花を見られて楽しかった」と話し、大満足のようでした。未来に向けて植物を守り、子供たちの笑顔を未来につなぐ。そのため何をすべきか、私たちが考えなければなりません。



右上から
宮崎喜和子さん
釣井けい子さん(右)、晴奈さん(左)
スズランを観察する小学生



スズランを未来へ

花いっぱいのア蘇市へ

※参加できるのはいずれか一方のみです。

地域団体の花いっぱい運動

地域の団体が、ボランティア活動により公園などで花いっぱい運動（花を通じて人々の気持ちを豊かに、また景観をよくすることを目的として行われる運動）を行う場合に、その活動に使用する花の種子や球根・苗を年に2回交付し、その活動の支援を行います。

支援対象 道路、公園、公民館、学校などの公共用地の植栽管理を行う地域団体。

交付するもの 花の種子・花の球根・花の苗
※花の種類は指定する種子の中から選択可。

各種条件・申請方法など

詳しくはくまもと緑・景観協働機構のホームページをご覧ください。

☎ 住環境課 都市・環境係

☎ 22-3169



くまもと緑・景観協働機構ホームページ

道路河川環境美化コンクール

市では、道路・河川の環境美化や住民の憩いの場づくりを推進しており、その一環として「道路河川環境美化コンクール」を実施します。日頃から道路・河川・水路の美化活動を行っている団体の皆さんはぜひご参加ください。

対象 地域生活に密着したすべての道路・河川・水路（延長20m以上または面積50㎡以上）

内容 花などの植栽による環境美化など

資格 ボランティアによる各種団体
※他の事業を利用している場合は対象外とします。

締切 5月31日（金）午後5時まで

審査 7月~10月上旬にかけて管理状況・見栄えなどの審査を行います。

表彰

▷最優秀賞（1点）賞金 50,000円

▷優秀賞（2点）賞金 20,000円

▷佳作（5点）賞金 10,000円

▷奨励賞あり

※事故などの責任および参加に関する全ての費用は、参加団体の負担（種子・苗は若干の助成あり）とします。

申込み・問合せ 建設課 管理係

☎ 22-3187

スズランだけじゃない。 阿蘇の初夏を彩る花々

仙酔峡・阿蘇山上

ミヤマキリシマ



ミヤマキリシマは九州の火山地帯にのみ群生するツツジの一種。鮮やかなピンクの花を咲かせます。仙酔峡に約5万株、阿蘇山上一帯に約30万株が自生。

見頃 5月上旬から中旬（仙酔峡）
5月下旬から6月上旬（阿蘇山上）
（写真は阿蘇山上・2023年5月17日撮影）

草千里

ハルリンドウ



野焼き後の草千里に青紫色の花を咲かせます。阿蘇市の花にも選定されています。

見頃 4月下旬から5月中旬
（写真は2023年4月13日撮影）

長寿ヶ丘公園

ツツジ



狩尾地区にある公園に1万株のツツジが咲きます。

見頃 4月下旬から5月上旬

※駐車場から先の車の通行はできません。

EVENT 春のバラまつり開催中

阿蘇ミルクファクトリー（はな阿蘇美）で開催。西日本最大級のバラドームで色とりどりのバラがお出迎えます。

とき 6月16日（日）まで 午前9時30分～午後5時

※バラドームは午前10時～午後4時30分最終入場

☎ 阿蘇ミルク
ファクトリー

☎ 23-6262

